問い合わせ先
警備救難部環境防災課
専門官　乳井　3591－6361（内線 3903）
3591－9819（直通）

平成 24 年 11 月 5 日
海　上　保　安　庁

「第 13 回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」
海上保安庁長官賞等の決定について

海上保安庁では、漁業・海運業関係者を重点対象とした海洋環境保全指導・啓発活動を実施しているほか、次世代を担う子供たちを主な対象とした海洋環境保全教室などを通じ、幼い頃から環境保全の心を養ってもらえるよう、啓発活動に取組んでいます。

これら啓発活動の一環として、(財) 海上保安協会の協力を得て、未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクールを実施しました。

11 月 1 日（木)、本コンクールの審査会を開催し、応募作品総数 29,318 点（小学生低学年の部 11,775 点、小学生高学年の部 11,412 点、中学生の部 6,131 点）の中から、各部門の海上保安庁長官賞および海上保安協会会長賞を決定しましたので、次の通りお知らせします。

1　受賞者

(1)　海上保安庁長官賞

小学生低学年の部　矢部　寛季（やべ　ひろき）
埼玉県　埼玉大学教育学部附属小学校　2 年生

小学生高学年の部　小川　蒼生（おがわ　あおい）
徳島県　徳島市　加茂名小学校　5 年生

中学生の部　岡本　遥子（おかもと　ようこ）
福島県　石川郡浅川町立　浅川中学校　3 年生

(2)　海上保安協会会長賞

小学生低学年の部　渡部　颯太（わたべ　そうた）
愛知県　常滑市立　鬼崎南小学校　1 年生

小学生高学年の部　佐々木　琉馬（ささき　りゅうま）
青森県　青森市立　浦町小学校　6 年生

中学生の部　加藤　里帆（かとう　りほ）
愛知県　知立市立　竜北中学校　2 年生

2　受賞作品および特別審査員のコメント

(1)　海上保安庁長官賞

小学生 低学年の部

○　家族で網を曳いた楽しい思い出が伝わってくる、良い作品です。上から描くことで、対象の全体を捉えて、網を曳く様子を効果的に表現しています。

○　地曳網の様子を上から俯瞰した構図ですが、よく見ると、網を曳く一人一人の描き方や網の中の魚も丁寧に描いています。砂浜の砂や海の部分の波の表し方等にも工夫が見られる、美しい作品です。

小学生 高学年の部

○　海の中の魚達の様子を思い浮かべて、綺麗な海や魚達を大切にしていこうという気持ちを素直に表現しています。作者の気持ちが自然と伝わってくる作品です。

○　珊瑚礁の海の中での感動が、そのまま伝わってくる作品です。クマノミを発見した表情が生き生きと描かれています。背景になっている海の表し方にも工夫が見られ、まとまりのある作品になっています。

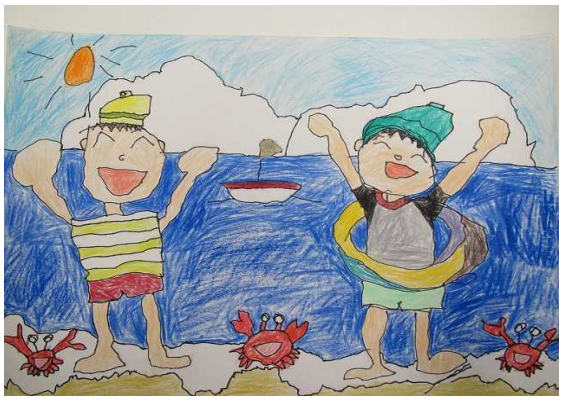
中学生の部

○　小さい頃から、海の近くで自然と触れ合ってきた作者の海を愛する気持ちが感じられる作品です。夕日の海を父と共に見た、幼い頃の思い出が、素直に表現されています。

○　シルエットを活かした作品です。夕陽が沈む美しい海に、海上保安庁の船と親子のシルエットという対比が、この作品の美しさを良く出しています。実際にこんな景色を見たら、一生忘れられないでしょう。

(2)　海上保安協会会長賞

小学生 低学年の部



○　海で泳いだ楽しい思い出を素直に表現しながら、綺麗な海を大切にしていこうという気持ちを伝えようとしている、低学年らしい作品です。
○　何といっても、二人の男の子の顔の表情がとても良い。本当に、海で楽しく過ごしている感じが見る人にも伝わります。一緒に万歳をしているカニにも注目です。

小学生 高学年の部

○　魚の種類毎に特徴を捉えて描き、自分が海中で観察している様な状況を思い描いて絵にしています。海への想いが伝わってきます。
○　夜の海という世界を、自分の世界にして表しています。月夜に懐中電灯を持って海に潜ると、こんな世界が広がっているのかも知れません。一つ一つの魚も、良く観察して描かれているうえ、色使いもとても美しい作品です。

中学生の部

○　美しい珊瑚礁に感動した、沖縄の思い出を再現しようとした努力の跡が感じられる作品です。この美しい海をいつまでも大切にしようとする気持ちが良く表現されています。
○　南の海の様子を、明るい色調と鮮やかな色使いで、美しく表しています。一匹一匹の魚も個性的に楽しく描いている作品です。

3　特別審査員講評

＜小学生 低学年の部＞

○　子供達が生活している場所は、映像や写真に囲まれており、作品も大人が作り出したイメージに大きく影響されているように思うが、子供の実体験からくる臨場感のある海の作品も数点あったので嬉しかった。

○　昨年同様、発達段階を考えると、技術的に高い作品が集められている。また、色彩のグラデーションや大人びた線等、小学校低学年の児童とは思えない程、完成度の高い作品も多い。しかし、一つ一つの作品を良く見ると、その中でも、子供らしい表し方や、楽しんで描いている様子も伺え、作品も多様化している。

＜小学生 高学年の部＞

○　高学年になると、技術面でも高度になり、自分の思いを工夫して表現しようとするようになる。日頃の海に対する素直な気持ちを、今まで身に着けた技術を使って積極的に表現している意欲的な作品が増えている。

○　小学校高学年児童においては、4年生から6年生へと、技術的にも最も変化が著しい時期だけに、作品の表し方も多様である。同様に、構図や視点も様々である。また、この時期になると、海の見方もそれぞれで、環境問題として表している作品や、海の力強さや躍動感を感じさせる作品もあり、テーマの捉え方にも幅が出てきている。

＜中学生の部＞

○　技術的に高度な表現に興味を持つ年代である。構図や色の使い方等を工夫し、自分の海のイメージをしっかりと表現しようとした作品が見られたので良かった。ただ、どこかで見た様な作品が多かったのが少し残念。

○　中学生になると、一気に表現技術が高まり、絵画作品として驚くようなレベルの高さを見せるものもある。また、人と海の繋がりを意識した作品も増え、人間として豊かな海と共に生きて行こうとするメッセージが込められている作品は、大人としても共感するところが多い。

（特別審査員：東京都中野区立緑野中学校　校長　牧井　直文 氏）
（特別審査員：東京都江戸川区立平井西小学校　主幹教諭　大道　博敏 氏）

4　表彰式について

各賞表彰式については、受賞者と調整のうえ、最寄の管区海上保安本部または海上保安部署等において実施する予定です。

詳細については、最寄の管区海上保安本部にお問合せください。

5　展示について

東京都営地下鉄のご協力を得て、平成24年11月16日から26日までの間、優秀作品を中心に、次の3駅で展示を行います。

○ 新宿線　市ケ谷駅構内（11/17～11/26）
○ 三田線　水道橋駅構内（11/16～11/26）
○ 三田線　三田駅構内（11/16～11/26）